

## 岐阜県立森林文化アカデミー

受賞機関 岐阜県基盤整備部公共建築課

### はじめに

日本は国土の3分2を森林が占める緑豊かな国であり、古くから固有の「森の文明」「木の文化」がはぐまれて来た。

しかし、近年社会生活と森林の結びつきが希薄になり、森林の生産的な利用が後退したことで、適切な手入れが滞りがちになっている。

この森林文化アカデミーは、自然を代表する「森」と再生可能な「木」を有効に活用し、森林地域の活性化に寄与する人材の育成を通じて、自然の循環と一体となった持続可能な社会を築くことを目指している。

### 事業概要

敷地面積：41.3ha（建築施設関係 6.4ha）

構造：木造

建築高さ：13.0m

建築面積：6,651.90㎡

延床面積：7,562.00㎡

アカデミーセンター：1,756.63㎡

マルチメディア実習棟：1,996.15㎡

アトリエ：951.82㎡

テクニカルセンター：1,996.15㎡

森の工房：438.90㎡

森の情報センター：626.00㎡

森のコテージ：716.70㎡

建設費（建物関係のみ）：21億4,400万円

設計・監理：岐阜県基盤整備部公共建築課

（株）北川原温建築都市研究所

（有）エース設備設計

### 事業の特徴

広い敷地に建築物を分散して配置し、相互の建築物を渡り廊下とフォレストウォーク（散策路）で結び計画としている。

フォレストウォークを、カラマツ材による階段や木デッキ、鉄道の枕木に使われるブナ材の大階段、コミュニティステージなど、様々な形態で敷地のなかに設け、構内を大きく循環する計画としている。



面格子



樹状立体トラス

このフォレストウォークとそれらに交差する渡り廊下により敷地のなかの様々な施設が緩やかに結びつけられている。

建物の構造材には、岐阜県産の針葉樹（主にスギ材）を採用し、構造材の接合は、鋼板を多用するのではなく、伝統的な木造仕口の原理を応用している。

面格子構造の持つ多数の「相欠き」は、力を分散して負担し、「めり込み」によってモーメントに抵抗する構造となっている。

また、樹のトンネルをくぐり抜けるイメージから生まれた樹状立体トラスを採用しているが、部材接合部の位置を一カ所に集中させない架構とすることで、接合部のに複雑な金物を使用することを避けている。